

158 様々な顔を持つ竹 (2023年4月27日)

フランスの日本庭園や公園の中などで竹を見ることがあります。竹は、温暖で湿潤な気候で育つ植物です。日本よりも緯度が高く湿度が低いフランスで、竹が育つことに驚きました。竹は、古くから日本人の生活に欠かせないものでした。今回は、日本人と日本を代表する竹についてお話したいと思います。



世界中には、竹の仲間は1400種類余り存在すると言われていています。ヨーロッパには竹は自生していませんでしたので、フランスで目にする竹は、いつかの時代に外国から持ち込まれたものと考えられます。よく見ると、フランスで見る竹(写真右上)は、日本で見るものよりも細いことに気が付きました。日本でも細い竹を見ることはありますが、竹と言えば、一般的にもっと太いものを想像します。大型の竹は、直径が最大で20センチほど、高さは20メートルに及びます(写真右は日本の竹林)



竹は成長が早く、昔から身近に豊富にあったことと加工しやすい性質から、太さや形の特徴を活かして、古くから、日本では様々な用途で使われてきました。茶道や華道の道具(写真左)、笛や尺八などの楽器、ざる(写真左下)や籠といった日用品、竹とんぼ(写真右下)や竹馬といった玩具、竹刀や弓などの武道具、収穫用のかごといった農具に加工されました。竹垣や建築資材としても使われてきました。このように、竹は鑑賞するだけでなく、これほどにも様々な道具として活用することができます。また、たけのこは、春の風物詩として日本人の食卓に欠かせないものになっています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



日本には、「竹取物語」という物語が伝えられています。これは、あるお爺さんが、竹林の中で光り輝く竹を見つけ、その中から現れた「かぐや姫」と名付けられたお姫様のお話です。1000年頃に成立した日本で最古の物語と考えられています。このお話は、竹が古くから日本人に身近な存在であったことを示しています。

さらに、松竹梅といって、竹は松や梅と並んでおめでたいものを象徴するようになりました。松と竹は、冬でも緑色を保っていることが生命力の強さを表しており、おめでたいものに選ばれた理由と考えられています。

日本人の生活に身近だった竹は、プラスチックや安価な輸入品に取って代わられて、日本人の日常生活から姿を消していきました。しかし、現在は、竹を有効活用しようとする動きが出てきています。竹の繊維を使った紙や布、竹に含まれる抗菌作用を活用した消毒剤やバイオマス燃料の開発が進められています。機能性の高い天然素材である竹は、他にどのように使われていくのでしょうか？今後の新たな竹の活用方法に注目していきたいと思います。